

ウィーン、プラハの思い出、、、そして幸子夫人のこと

金井 尚弘

1 / 2

今はOPC会長になっている藤本健二さんから「**プラハの春 音楽祭**」かたがた中世ヨーロッパの中心だったウィーンやチェコのいなか町などをゆっくり訪ねてみませんか。」と誘われて、私たち夫婦もこの旅に参加したのは確か藤本さんがツアーコンダクター・ライセンスを取得してまもなくの頃でした。



初日、藤本さんの奥様・幸子夫人の案内で成田に集合したこの旅は ツアー形式ではあるものの、代表者である藤本さんご自身は「**ロンドンから来たよ。**」とかで ウィーン到着の翌日、突然ホテルに現れて合流されたり、そのほかの参加者でも日本人ではあるけど今はドイツ・シュツットガルトに住んでいて「**久しぶりに藤本夫妻に誘われて、飛んできました。**」との Mrs.清子シュミットとか、日本の伊豆高原でペンションをやってる若いソプラノ歌手ご夫妻、はたまた途中飛び入り参加のプラハ音楽大学声楽科に在学中の若い日本人学生ら、それと他に幸子夫人の出身、京都の高校同期生数人を合わせて全メンバー19人の、行程も氏・素性も多彩な構成で始まりました。

おまけに旅行最終日はプラハ空港で肝心の藤本夫妻は「**日本に帰るみなさんとはここでお別れ。これから私達はハンガリーに行くから…**」なあ〜んて云ってそこでサヨナラ。ほかにも空港で「**これからポーランドへ…**」と云って別れて 別なゲートへ向かう人もいて、それぞれ気ままな行程での集まりでした。



旅のメインは、特にウィーンから220 km、プラハから250 kmほど南東にある北モラヴィア地方の県都、学園都市**オロモウツ市**で 駅前のホテルを根城にして滞在しました。

ユネスコ世界遺産・聖三位一体コラム、プシェスミル宮殿はじめ近辺のボーズフ、プシェロフ、それにチェスキー・クルムロフなど、はるか昔中世バロック様式宮殿や教会、博物館、そして当時の繁栄を残す民族色豊かないくつかを回って **ハプスブルグ帝国時代**の栄華を垣間見て、堪能しました。



往路はバスで途中の田舎を訪ねながら、、、そして帰途プラハへはかの有名な豪華ヨーロッパ特急「**ペンドリーノ号**」の一等車窓からモルダウ川に沿って古城など景観を楽しみながら一路プラハへ戻りました。